

2013年12月20日掲載

「手紙がつないだ13年」

先日、茨城に住んでいた大学時代の友人から、札幌に引っ越したとはがきが届いた。パソコンや携帯のメールですぐに連絡が取れる今、あえて手書きで送られたはがきから温かさを感じられた。

実は、私には13年間文通をしている人がいる。大学4年生時にフィールドワークで訪れた、奈良県^{かしはら}橿原市今井町に住む50代の女性である。重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、地元の人に話を聞こうと偶然インタビューしたのである。1時間の会話にすぎなかったが、会話が弾んで手紙のやりとりが始まり、毎年、年賀状や暑中見舞いを送りあっている。

今月上旬に近畿地方に行く機会があり、会えないかはがきを送ったところ、時間を取っていただけることになった。返信には「なんてうれしい待ち時間なんでしょう！」と言葉が添えられ、私もその時を待ちわびていた。

そして13年ぶりの再会。「1時間話ただけだったのに、ここまでつながることができるなんて・・・」と感慨深げに話してくださり、13年の月日を埋めるかのように会話で時間があっという間に過ぎた。

はがきはメールと違ってすぐに返信が来るわけではないし、住所が変わって届かないかも知れない。しかし、そんな待ち時間もドキドキして楽しい。すぐにコミュニケーションが取れる今だからこそ、手書きの文字はその人らしさを感じる。まもなく新年。お世話になった方々に、より感謝の気持ちを込めて今年の年賀状を書こうと思う。

森順子：千葉県出身。34歳。元テレビ北海道（TVh）アナウンサー。旧姓：矢部。現在はコミュニケーションの講師等として活動中。

（毎日新聞より）